

コミュニケーションが必要な理由

～コミュニケーションが必要な理由～・・・本日のポイント

☆「受容」⇒受け入れてもらいたい欲求・・・挨拶、名前で呼ぶなど・・・

☆「承認」⇒認めてもらいたい強い欲求・・・誰かに認めてもらう、ほめたり、励ましたり

☆「重視」

⇒人から大事にされたい欲求・・・誰からも大事にされたいと願う気持ち

コミュニケーションの技法

コミュニケーション 技法

○言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション

～メッセージを伝えるコミュニケーションには、

言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーションがある。

・言語的コミュニケーション / 話し言葉、書き言葉

・非言語的コミュニケーション / 表情、声の調子の高低、他(ジェスチャー)・・・等

→言語的コミュニケーションが「2～3割」、

非言語的コミュニケーションが「7～8割」、メッセージを伝えてゆく。

また「沈黙」は、言語以上に伝える(伝わる)??

また、人の伝える話には、様々な側面があり、そのうち、感情(思い)は、

非言語的コミュニケーション通じて伝わる場合が多く、相手の言葉とは

裏腹の思いを見過ごしがちな場合も・・・

出典:「介護現場でのコミュニケーションを考える」

メラビアンの法則

※アメリカ心理学者 アルバート・メラビアン

～情報の受け手を混乱させては、ならない～

☆言語、非言語のコミュニケーションを一致させる

⇒言語、非言語の間(組み合わせ)の際、内容に不一致や矛盾が発生した場合、受け手は混乱を生じ、不快な思いをする。

(本日のポイント)

“言語”“声のトーン”“態度”が矛盾したメッセージの形にしない・・・

☆“非言語”が、“言語”が上回る時があります・・・。

なんで、結びつき？

「多職種連携」の時代・・・経験値だけでなく、新たな“学び”を
～ “ IPW (利用者中心の保健医療福祉連携実践)” ～

☆新たな時代、保健・医療・福祉の連携・統合での“チーム作り”の時代・・・
私は毎年、千葉大学の演習のファシリテーターをしています。

千葉大学は、**医学部、看護学部、薬学部**とあり、各々が「**実習**」に行っています。
新たな視点や考え方を共有出来、そしてまた、「利用者中心」の思いで、共有・
協働してゆける、環境を作っている大学です。

☆ この考え、「これから特に大事」・・・です。